

環境設計キーワード・チャレンジ

概要 九州芸術工科大学では今年から芸術工学部全学科で、学部3年生全員を対象として、キーワードを用いた「知識の創造的活用力を測る口頭試験」を行うことになりました。この口頭試験の目的は、みなさんが卒業計画に着手するために十分な知識を身に付けているか否かを判定する場を設けることにより、環境設計学科の卒業生として必要となる基本事項についての知識を整理するための、指針と契機を与えることです。

環境設計学科の全教員が、それぞれの小専門分野を背景に担当科目の枠に関わらず各講座50個程度のキーワードを用意しました。別紙一覧表を参照の上、授業で学んだと思うものは復習を、見たことがない、わからないと思うものは各自で調べるなどして自主的に学習してください。

口頭試験日時 2004年1月15日 13:00～

場所等はおって発表します。

口頭試験の位置づけ、方針

- ・環境設計学科の学生として学んできたはずの内容（提示されたキーワード）全体について3年間でどれだけ身に付けることができたかの確認（どの科目を履修したかとは無関係）
- ・実務上でキーワードを利用したコミュニケーション、議論ができる水準が目標
- ・ひとつだけの正解（模範解答）があるわけではない＝ペーパーテストでは測れない 口頭試験
- ・口頭試験の結果は、卒業計画の研究室配属の参考資料とする。

【参考】フランスでは高等教育を受けた者に、「書くように話す」能力が求められるという。大学に入る頃から、演説能力を試される機会が増えてゆき、試験に口頭試問はつきものである。そこではひとつのテーマについて短時間に自分の考えをまとめ、その場で理路整然と「書くように話す」能力も問われる・・・(Agora 記事より)

このような能力は、本来コミュニケーションを必要とする職業分野では必須のはずである。いきなり、自分の考えをまとめ、理論を組み立てて話すことは難しいとしても、自分の専攻する分野で基本として身につけるべき知識について自らのものとして理解し、これを相手に応じて適切に使い分けたり、説明したりすることは環境設計学科の卒業生に当然求められている。

環境設計学科口頭試験実施の手順

- 1.環境設計学科の助手以上の教員全員が各講座ごとに2つの「評価クルー」に分かれ口頭試験を実施する。ただし、実情に応じて教員が講座の枠を越えて移動することもありうる。
- 2.各学生は一人ずつ、3つすべての講座で各10～15分程度の口頭試験を受ける。受験者は各講座ごとに並んで待つものとし、先頭の学生は先に空いた評価クルーのほうに進む（フォーク並び方式）。
- 3.キーワード一覧の中からその場で指定されるキーワードについて評価クルーに対し、説明を行う。これに対し、評価クルーが関連質問を行うので、さらにそれに答えるという形が続けられる。
- 4.それぞれのトライアルにおける「合」「否」判定の基準は、基本事項をまじめに学習したり考えたりしてきたと判断されるか否かである。

環境設計キーワード一覧

BOD、COD	共有地の悲劇
アーツ・アンド・クラフト運動	共用空間
アテネ憲章	近隣住区
アフオーダンス	芸術
アメニティ	芸術工学
インフラストラクチャー	景観条例
ウェーバー・フェヒナーの法則	建築意匠論から見た建築形態
H形鋼	建築基準法
応力と変形	建築空間設計における空間と光
オープンスペース	建築における結露
屋上緑化	建築の5つのオーダー
オゾン層破壊	原風景
音環境の三要素	公害
温室効果	工学
温熱指標	考古資料と遺構資料
開発援助	剛接合とピン接合
外部不経済	構造形式（使用材料）
海陸風	構造形式（抵抗形式）
科学	構造物の基礎と地盤
輝く都市	広葉樹林
隔離収容	合理主義
荷重(建築物にかかる)	コーポラティブ住宅
河川敷	コールドドラフト
過疎と過密	ゴシック建築
桂離宮と日光東照宮	コミュニティ
感覚と環境要素	コンパクトシティ
換気	最小限住居
環境アセスメント	里山
環境汚染	酸性雨
環境基本法	自然エネルギー
環境教育	自然環境
環境共生	自然公園
環境政策手法	自然災害
環境設計	自然遷移
環境デザインの専門分化	持続可能な開発
環境の概念	シックハウス
環境の経済価値評価（CVM）	室礼
環境ホルモン（内分泌攪乱物質）	指定文化財と登録文化財
環境リスク評価	住民参加
幾何級数的成長	

住様式	パーソナルスペースとテリトリー
集落	バイオマス
修理と修景	場所性
循環型社会	パタン・ランゲージ
書院と数寄屋	パルテノン
省エネルギー	POE
使用価値と交換価値	ヒートアイランド
照度と輝度	ビオトープ
植栽計画	ピクチャレスク
食物連鎖	表色系
人工林	費用便益分析
親水性	ビルディングタイプ
水源涵養林	フィールドワーク
生態系	復原と復元
性能のヒエラルキー(WHO による)	物質文化
生物学的適応と文化的適応	物体と空間
生物多様性	プログラミング(環境デザインにおける)
生物濃縮	保存計画
折衷主義(19世紀建築の)	保存樹
線引き都市計画	町家型と屋敷型
草本植物・木本植物	祭り
ソーシャルミックス	ミティゲーション
ダイオキシン類	無作為抽出法
耐震構造計画	目的論的自然観と機械論的自然観
弾性と塑性	優性思想
地域計画	ユニバーサルデザイン
沈黙の春	用量・反応関係
ツーリズム	ライフステージ
デザイン	ランドスケープ
田園都市	リゾート
伝統的建造物群保存地区	歴史的環境の保存(運動)
動物の権利と自然の権利	ワーカビリティ (workability)
都市計画法	枠組壁工法(ツーバイフォー工法)
都市公園	
都市施設	
土地倫理	
二段階供給型住宅	
日本庭園	
ニュータウン	
人間の情報処理系モデル	
農山村問題	
ノーマライゼーション	